



会期中の主な動き

■特別委員会の開催状況

- 行政改革・基本計画等に関する特別委員会(2/24)
- 議員定数等検討特別委員会(3/9)

■観光振興に係る条例案検討会の開催状況

- 第2回検討会(2/26)
- 第3回検討会(3/18)

■議員の辞職

- 玉置公良議員(3/19)

議案等の議決結果

項 目	件数	件 名	結 果
予算案件(知事提出)	31件	平成21年度和歌山県一般会計予算 等	可 決
条例案件(議員提出)	1件	議会の議員の議員報酬の特例に関する条例の一部を改正する条例	可 決
条例案件(知事提出)	47件	和歌山県文化芸術振興条例 等	可 決
その他案件(//)	21件	工事請負契約の締結について 等	可 決
人事案件(//)	2件	和歌山県副知事の選任につき同意を求めるについて 等	同 意
請 願	1件	教育改革についての請願	継続審査
意見書	1件	北朝鮮による日本人拉致問題の解決のため経済制裁の延長などを求める意見書	可 決

会期：2月24日から3月19日までの24日間

2月24日(火)	本会議	3月 2日(月)		9日(月)	本会議	16日(月)	常任委員会
25日(水)	議案調査	3日(火)	議案調査	10日(火)	(一般質問)	17日(火)	
26日(木)	本会議	4日(水)		11日(水)		18日(水)	本会議
	常任委員会	5日(木)	本会議	12日(木)	予算特別委員会		予算特別委員会
27日(金)	議案調査	6日(金)	(一般質問)	13日(金)		19日(木)	本会議

失業者の生活保護

問 失業者には、住居や労働能力で生活保護申請の受付を拒否するなど申請権を侵すことなく、速やかな審査と可否の決定を行うことが求められるが、どうか。

答 失業者から生活困窮の相談がある場合、懇切丁寧な情報の提供と支援を行い、相談者の生活保護の申請権を侵害することなく、また侵害していると疑われるような言動は厳に慎むよう福祉事務所に指導してきた生活保護の適用に当たっては、申請者の状況に応じ適切な処理に努めるよう引き続き周知徹底を図っていきたい。

過疎法延長に向けた取組

問 過疎地域に残された課題は多いが、誇りある地域づくりを進めるため、過疎地域自立促進特別措置法の延長に向けて今後どのように取り組むのか。

答 過疎地域は、国土保全や地球温暖化防止など国家的・公益的機能を有し、農林水産業及び観光産業面で可能性が広がる重要な地域である。県としては、地域の実情や住民の意向を踏まえ、過疎地域が自立・持続できるための施策や集落維持対策などが新たな過疎法に盛り込まれるよう、国に強く働きかけていきたい。

南紀スポーツセンターの改修

問 観客席は老朽化し、グラウンドは陸上競技大会の公認を得られない現状である。次期国体に向け、関係諸団体と設計について十分話し合って改修することが必要ではないか。

観光振興条例への期待

問 県議会では、県民総参加で観光立県をめざすため、観光振興条例の制定を考えている。昨年12月から検討会を設置して議論を深めているがこの条例にどんな期待をするか。

答 県民総参加の視点は大変重要で、元気な和歌山づくりのため積極的に観光振興に取り組んでいる立場から大いに賛意を表したい。条例の制定により、県民のすべてが県勢浮揚には観光振興が不可欠との認識を持ち、一人一人が観光振興に積極的にかかわっていく機運ができていくものと期待している。

国体と観光振興

問 平成27年に開催予定の和歌山国体では数種目が県外で開催されると聞くが、今後の方針はどうか。また、観光立県と教育委員会のかかわりはどうか。

答 競技会場地市町村の第一次選定では、すべての正式競技の県内開催をめざしたが、市町村の希望、大会運営への協力体制等を踏まえ、既存施設の有効活用に努めた。今後もし引き続き協議を重ねていく。観光立県については、貴重な文化財の保存と活用を進めながら、「紀伊山地の霊場と参詣道」等、本県の持つすばらしさを改めて発信していきたい。

高校入試制度変更の総括

問 平成20年度の途中で入試制度が変更されたが、制度変更に伴う準備から出願までの、現時点での総括と来年度に向けた取組を聞きたい。

答 各中学校では、進路説明会や三者懇談会で新制度への理解と周知に取り組み、本出願に向けての志願先変更等、丁寧な対応によつて円滑に進めることができたと考えている。今後も、生徒・保護者や学校関係者から幅広く意見を聞き、新制度がよりよいものとして定着するよう努めていきたい。

メガソーラー発電所の誘致

問 低炭素社会の実現は、我が国の国際公約である。環境先進県をめざす県としてメガソーラー発電所建設を誘致すべきだと考えるが、どう考えるか。

答 太陽光発電は日照時間が長い本県の特徴を生かせるものであり、温室効果ガスを発生させない自然エネルギーの利用として、その導入に積極的に取り組んでいる。メガソーラー発電所についても、今後、状況をフォローしながらチャンスを見て実現できるよう引き続き努力していきたい。



南紀スポーツセンター

用語解説 メガソーラー発電所

出力1メガワット(=1,000キロワット)以上の大規模な太陽光発電所。大阪府堺市の臨海部では28メガワットの計画が進められている。

農水産物の海外販路開拓



ドバイ(アラブ首長国連邦)における和歌山県産果実フェア

問 経済水準の高い先進国への県産果実の販路開拓は、大変重要である。農水産物の海外販路開拓の将来展望についての考えはどうか。

答 本県の将来の農業振興を考えるとき、海外は大きな魅力ある市場で、農水産物の輸出促進に努めており、桃・柿・ミカンの輸出実績が右肩上がりに伸びてきている。21年度においても、東アジア諸国や欧米はもとより、中東などの新興市場へ「おいしい和歌山」の販売促進に積極的に取り組んでいきたい。

農林水産業の総合対策

問 県の新農林水産業戦略プロジェクト推進総合対策の目的と総合事業についての考え方、また地域振興・再生という総合的視点を踏まえての考え方はどうか。

答 農林水産業は本県の重要産業であり、地域課題に対応する戦略プロジェクトには県もコーディネーター役として参画し、生産・加工・流通・販売対策、また担い手育成や優良農地づくりなどの対策を総合的に推進する。